

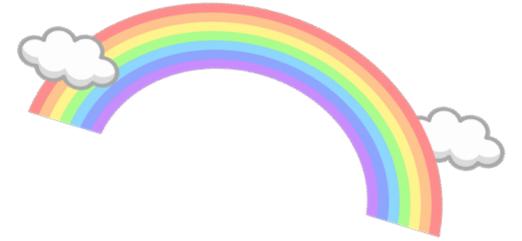


令和8年2月10日

令和7年度第2回 松戸市医療的ケア児の支援のための連携推進会議

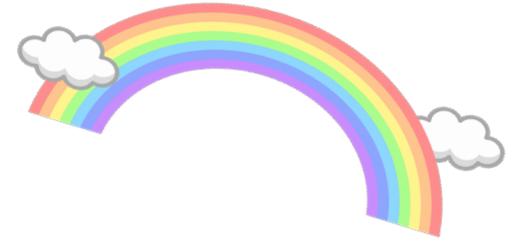
医療的ケア児者支援研修会の報告

NPO法人こども子育て・発達支援研究会
発達支援室びーんず相談支援専門員
富永 文子



本日お話ししたいこと

1. 医ケア児者の相談支援と医ケア児コーディネーター
2. 研修会企画までの経過
3. 医療的ケア児者支援研修会
4. 研修を終えて見えてきた医療的ケア児者支援に関する地域課題と今後の展望

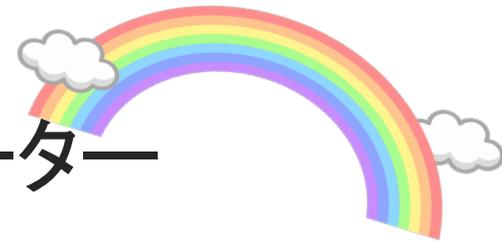


1. 医ケア児者の相談支援と医ケア児コーディネーター

・平成25年から児童福祉法が一部改正になり障害児も障害福祉サービスを受ける際には**計画相談**(ケアマネジメント)が必要になりました。「相談支援専門員」とはその「ケアマネジメント」の仕事をする人です。

①相談支援専門員の役割

・以前は在宅における病児・障害児のケアは家族(特に母親)だけが担う事が当たり前でしたが、**障害福祉サービスの利用**や**訪問看護**の利用が身近になったことや、特に医療的ケアを受けながら(病院や専門の施設ではなく)在宅で暮らす子どもたちが増えたことから、「相談支援＝ケアマネジメント」のニーズが高まりました。



1. 医ケア児者の相談支援と医ケア児コーディネーター

② 医療的ケア児等コーディネーターの役割

医療的ケア児等コーディネーターの役割

医ケア児に対する専門的知識と経験に基づいて、支援に関わる(多職種)関係機関との連携を図り、とりわけ本人の健康を維持しつつ、生活の場に多職種が包括的に関わり続けることのできる生活支援システム構築のためのキーパーソンとしての役割が求められています。

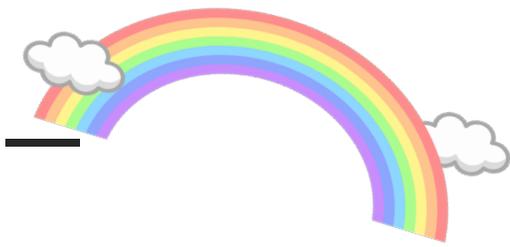
- (1) 医ケア児等に関する専門的な知識と経験の蓄積
- (2) **多職種連携**を実現するための水平関係
- (3) 本人中心支援と自立支援を継続していくための家族との信頼関係づくり
- (4) 医ケア児等の相談支援業務 (計画相談・ソーシャルワークなど)

医療的ケア児者の地域生活を支える機関

分類	機関
①医療	病院、訪問診療、*こども発達センター、訪問看護ステーション、訪問リハビリ、訪問薬局、訪問歯科
②福祉・療育	相談支援、*こども発達センター、児発、放デイ、居宅介護、短期入所、基幹相談支援センター、日常生活用具、補装具などの事業者
③行政	松戸市障害福祉課、松戸保健所、こども家庭センター(おやかすこやかセンター)
④教育	教育委員会、スクールソーシャルワーカー、特別支援学校(県教育委員会)

1. 医ケア児者の相談支援と医ケア児コーディネーター

③ 相談支援専門員と医ケア児コーディネーターの連携



医療的ケア児者を担当する相談員の不安

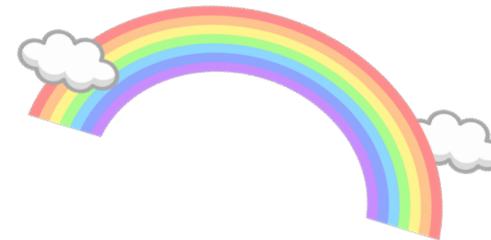
- ・自分たちが関わって役に立てるのか？
- ・医療がなければ生命に危機的なことが起こりそうで、責任が取れず、怖い。
- ・医療的ケアに関する知識が不足していると感じるから
- ・医療的ケアのある子どもの生活の実態を知らないから
- ・医療的ケアに対応できる利用可能な地域資源が少ないから

(平成25年千葉県調査)

医ケア児コーディネーターは、医療のプロではありませんが、**多職種連携**のプロでありたいと思っています。

一人の相談支援専門員が抱えられる人数には限りがありますが、蓄積された経験と智識をもとに、どの専門職が何ができるのか？をリサーチし、相談支援専門員をバックアップします！

2.研修会企画までの経過



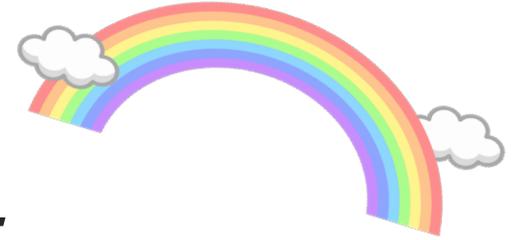
【富永の感じていた課題観】

- ・新規の医ケアケースが年間何件か舞い込むが、一人の相談員で受けられる人数には限りがある。(医ケア以外のケースも一杯！)
- ・市内では他のどの事業所で医ケアのケースを受けているのか、医ケアコーディネータ研修脩了者がどなたなのかわからない為、他の相談員に振れない。
- ・病院、訪問看護、関係機関などから直接依頼が来るためニーズが高めのケースが多く結局自分でやるしかない。
- ・相談支援の報酬はあくまでもプラン作成・モニタリングで1回請求なので、月に何回何時間稼働しても同額(お金になりません！)

【話し合いで出た課題】

- ・医療的ケア児等コーディネーターが、どのような役割や機能が求められているのか、効果的な配置の体制等について明確にできていない。
- ・医療的ケア児等コーディネーターが個々に相談を受けて対応しているケースが多く、行政・医療・福祉・教育関係者の連携しやすい体制づくりが必要。
- ・医療的ケア児とその家族のニーズに対応できる社会資源が不足している。
- ・医療的ケア児に対応できる相談支援員・医療的ケア児等コーディネーターが不足している。

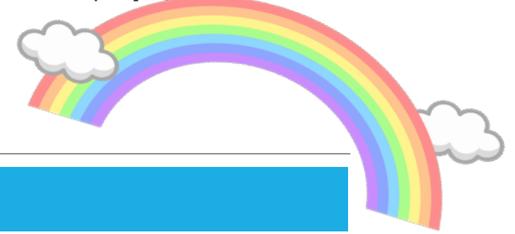
2.研修会企画までの経過



- ①松戸市において**医療的ケア児等コーディネーター**の配置が必要という事実はあるが、具体的な役割やニーズについては整理できていない。
- ②支援をマネジメントする役の(**医ケアケースを引き受ける**)**相談支援専門員**の不足があり、**医ケア児者**が必要なサービスを十分に受けられていない。

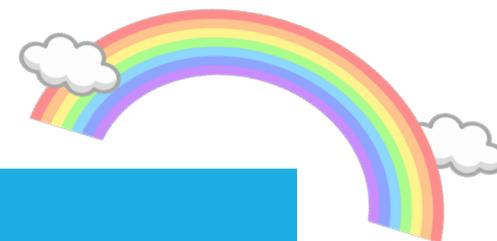
2.研修会企画までの経過

課題解決のため千葉県実施の「医療的ケア児等コーディネーター養成研修」を修了した、市内の医療的ケア児等コーディネーターとの定期的な打ち合わせを実施



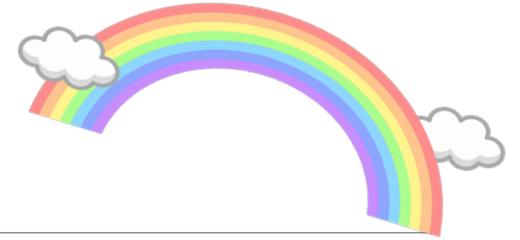
日時		
2月14日	打ち合わせ① (医ケアC+市職員)★	市のコーディネーターの顔合わせ 今後の活動の方向性、情報共有(個別避難計画等)
3月26日	打ち合わせ②★	医療的ケア児等コーディネーターの役割について
4月30日	打ち合わせ③★	医療的ケア児コーディネーターの役割について 支援者向け研修会について(方法・内容・フィードバック等)
6月12日	打ち合わせ④★	支援者向け研修会に向けた内容、役割分担など
6月24日	第一回医療的ケア児者支援研修会	相談支援専門員を対象とした研修会を開催
7月25日	打ち合わせ⑤★	6/24の振り返り
8月29日	打ち合わせ⑥★	今後の活動と研修2回目の内容検討
10月24日	打ち合わせ⑦★研修会講師、FT	研修2回目の内容検討
12月5日	打ち合わせ⑧★講師、FT	第二回医療的ケア児者支援研修会進行、役割分担など
12月19日	第二回医療的ケア児者支援研修会	相談支援専門員を対象とした研修会を開催

3. 医療的ケア児者支援研修会



	第1回	第2回
日時	令和7年6月24日(火)14:00~16:30	令和7年12月19日(金)13:30~16:30
場所	ふれあい22 3F 研修室	ふれあい22 3F研修室
対象	主に松戸市内の相談支援専門員	主に東葛地区の相談支援専門員
講師	森泉智子氏 あおぞら診療所松戸看護師 富永文子 医療的ケア児コーディネーター	藤木とみよ氏 医療的ケア児コーディネーター 看護師・社会福祉士
内容	講話 「医療的ケアって何でしょう？」 医療の立場と福祉の立場から、医療的ケアの内容、分類、制度のこと、事例の紹介など グループワーク 「医療的ケア児のアセスメントをとってみよう。」	講話 「医療的ケア児者の相談支援」 ・ライフステージに応じた相談支援のポイント ・事例紹介など グループワーク 「医ケア支援で困っていること、もっと知りたいことなどを医ケアコーディネーターと一緒に話し合みましょう。」
参加者	23名(講師、ファシリテーター含む) 松戸市、柏市、流山市、千葉市	33名(講師、ファシリテーター含む) 松戸市、柏市、流山市、野田氏、我孫子市

3. 医療的ケア児者支援研修会 ＜第1回グループワーク＞



Aちゃんのアセスメントを 取ってみよう

Aちゃんは4歳になり、児童発達支援事業所への通所(週3回)が定着してきました。

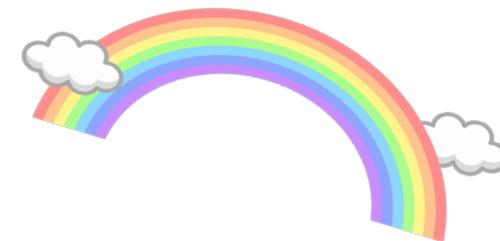
ママは仕事復帰を強く望み、会社との交渉、妹の保育園探しも始めました。

Aちゃんの体調には不安もありますが、できる限り希望に添うような形を一緒に模索する事で、姉妹の育児を改めて見つめなおせるよう支援をしていきたいと思えます。

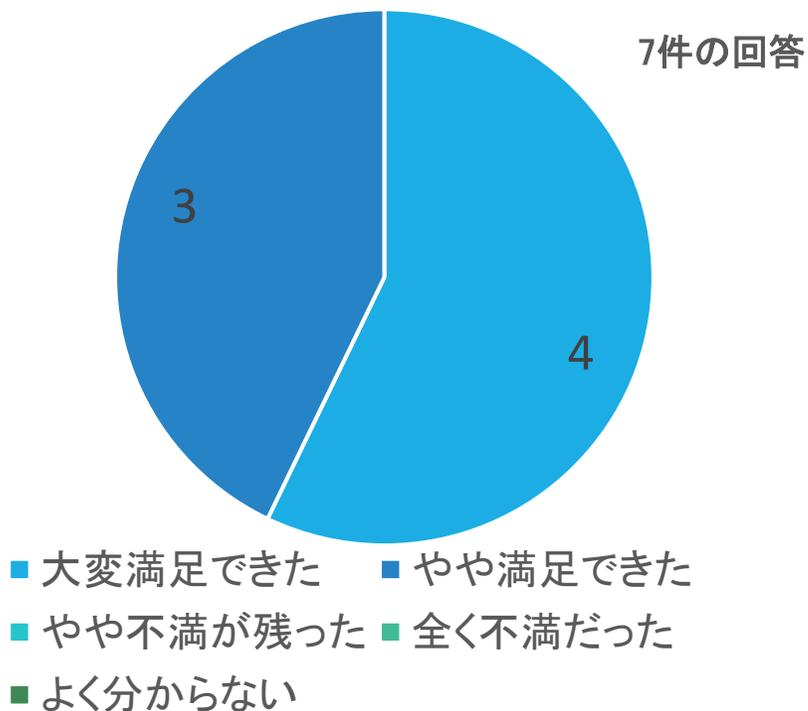
＜Aちゃんのアセスメントのポイント＞

- Aちゃんは呼吸器が外せない。
- 乾燥による痰詰まりや、誤嚥性肺炎で体調を崩すことがよくある。
⇒吸引、吸入は頻繁。毎日の入浴は排たんケアの面からも大切。
- 骨の病気なので、骨折のリスクが高い。
- 注入はポンプで、長い時間(2時間/1回)かかる。
- 児童発達支援の通所が始まり表情がとても豊かになってきている。
- 妹はもうすぐ2歳(ママの育児休業があける)

3.医療的ケア児者支援研修会 第一回終了後アンケート回答



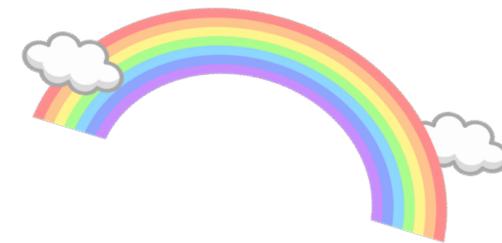
①どの程度満足できましたか？



②学んだ内容を、業務でどのように活用できますか？

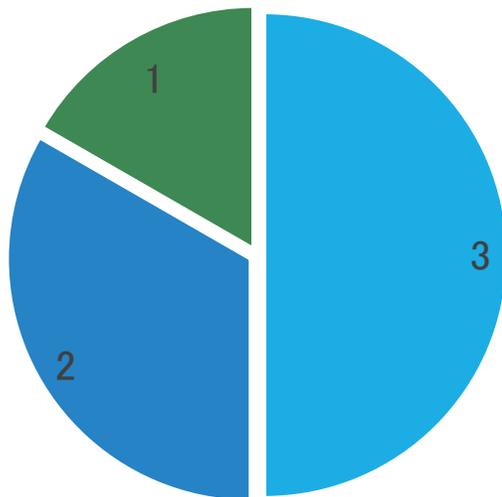
- 再度初心に戻って支援したいと思う。
- とりあえず今日は知識の習得ができた。
- 家族への支援に活用したいと思う。
- 医療的ケア児のアセスメントについて今後の業務に活かせると思う。
- 他市でも医ケアの相談支援が増えていけるように、取り組みを紹介していきたい。
- 医ケアのお子さんを新規で受ける不安が減った。

3. 医療的ケア児者支援研修会 第一回終了後アンケート回答



③ 今回の研修を受けて、医ケアケースの依頼があったら引き受けますか？

6件の回答

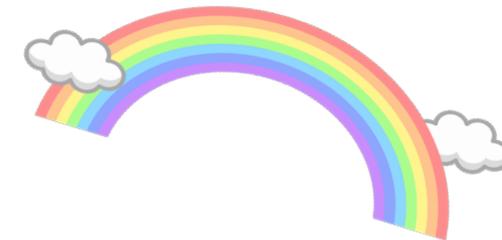


積極的に引き受けたい 3
医ケアコーディネーターの支援があれば引き受けたい 2
よくわからない 1

④ 理解できなかった点や、さらに知りたい点がありますか？

- ・やはり専門の医療分野ということでまだまだ知識が足りない、知りたいことはたくさんある。何がというよりはなんでも吸収したい。
- ・医療的ケア児の就園就学の支援方法について、個別避難計画と避難訓練について。
- ・実際に受けている方、まだ受けてない方の不安や困りごとを伺いたい。
- ・保育園入園や学校就学のタイミングで、相談員がどのような役割を担っていくのか。また、医ケア児コーディネーターと相談員との連携についてを勉強していきたいと思った。

3.医療的ケア児者支援研修会 第一回終了後アンケート回答



⑤研究会に関する感想や意見を自由に書いてください。

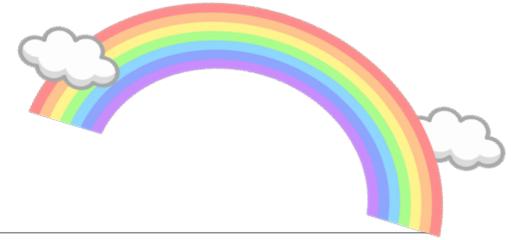
- 医療的ケアが必要な方の相談について、具体的なケースを見て良かった。参加出来て良かった。
- 模型などもあり、大変勉強になった。顔の見える関係を作ることができた。

▪運営側も参加者側も、日々の業務で忙しい中、このように集まって研修ができることがとても良い取り組みだと思う。そんな中、一事業所として最後にうまく話をまとめられなかったのが心残りだ。

私のグループの相談員二人は経験もあり対応など心配ないように感じた。ただ、他職種連携としての特に医療側との連携に不安を感じていた。その為、次回の応用編では具体的な医療への問い合わせ方法が学べる機会があればと思う。例えばカンファレンスなど会議を開くタイミングや会議の回し方など、ケースを通して学びたい。各相談員が困難事例を持ち寄って事例検討などもありだと感じている。

弊事業所の相談支援専門員対象の研修はまだ予定だが、こちらも今回の研修を持ち帰って内部で検討していきたいと思う。

3. 医療的ケア児者支援研修会 ＜第2回グループワーク＞

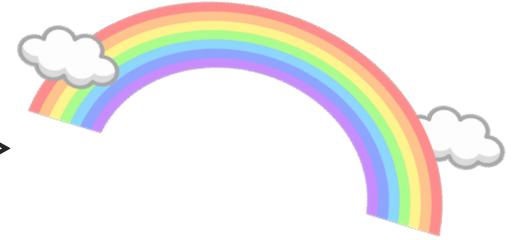


「医ケアのこと何でも話そう」

本日のグループワークは特にテーマを決めずに先ほどの講義の感想・気づき・疑問点や、日ごろ皆さんが「医ケア界限」で感じていること、素朴な疑問など、何でも話してみましよう！

- 1、このグループで話したい事、聞いてみたいことなどそれぞれポストイットにまとめる(5分間程度)
* FTはメンバーの様子で時間を調整
- 2、自己紹介(名前、所属(市町村)と話したい事発表
* 一人3分程度が目安、先ずは一番優先するものから話してみましよう。
- 3、グループでトーク(~15:25頃から各グループ発表タイムです！)

3. 医療的ケア児者支援研修会<第2回グループワーク> グループワーク発表



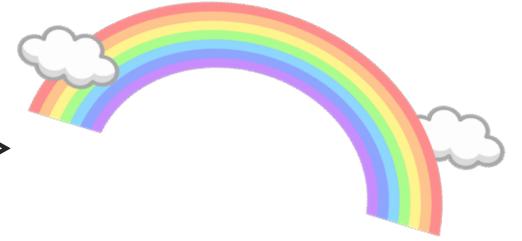
Aグループ

- ・このグループは医ケアに関わりのある方が多いので具体的な話ができた。
- ・ご家族の負担⇒仕事と育児の両立・優先順位
- ・緊急対応ができる資源が不足(短期入所など)
- ・入浴は家族(一人)だけでは難しい場合があるが、ヘルパーや訪問看護を導入する際、家族の生活スタイルに合わせ時間を指定されると事業所が見つかりにくい。
- ・児発・放デイも利用できる事業所での受け入れ人数も少なく、利用できる時間なども限定的な場合がある。(ご家族が仕事をするのは不十分)

Bグループ

- ・各市の取り組みについて情報が得られた
⇒不十分な部分は他市を参考に、自立支援協議会を巻き込むなどのアクションを起こしていきたい。
- ・野田市は実態調査を実施するも、高齢の方が多かった。介護との線引き
- ・情報は武器になる⇒支援の参考に
- ・医療との連携、各市の相談支援専門員とコミュニケーションを取って情報を仕入れる。

3. 医療的ケア児者支援研修会<第2回グループワーク> グループワーク発表



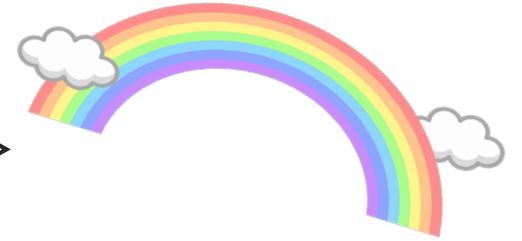
Cグループ

- ・サービス調整が大変⇒児発・放デイ・短期入所が特に不足している。
- ・ヘルパー事業所は医ケアに対応している所が多い。
- ・保護者との関わりの難しさを感じている。⇒まず親御さんの意見・考えを聞くことが大切。
- ・相談事業所が行政直轄の場合⇒土日の相談ができない(保護者の方も病院で休むことが多いので休みが取れない)
- ・医ケアの軽い・重い線の引きが聞きたい
- ・医ケア=重い・怖い・大変そうのイメージ⇒構えてしまう
- ・どの障害も相談支援専門員としてやることは同じ

Dグループ

- ・ファシリテーターへの質問⇒男性相談員としての不安(母親との関わり)⇒相談支援専門員としての経験や視点を伝えていけば続けていける
- ・女性の相談員を希望される母親は多い
- ・他市にどこまで相談してよいか
- ・医療面を知っていた方が良いのではないか
- ・引継ぎのタイミング⇒いつの間にか入院しているなど、情報の仕入れ方が課題
- ・各サービスにつながっているため、相談支援専門員としては生活面での支援がメイン
- ・情報共有の場について

3. 医療的ケア児者支援研修会＜第2回グループワーク＞ グループワーク発表



Eグループ

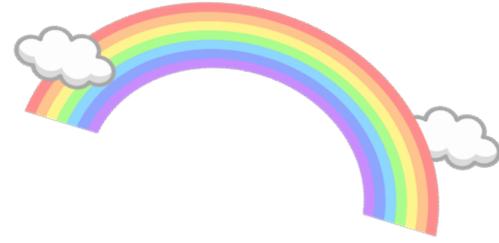
- ・医ケアに詳しい方に相談できる場が貴重であった。
- ・市ごとの違いについて共有できた。
- ・今日の講義で印象に残ったところ⇒相談支援専門員は万能である必要はない
- ・親御さんの方が詳しいことも、医療の部分は分からないことも多い⇒相談支援専門員として腰を低く、「聞かせていただく」態度で
- ・小慢などの用語を理解しておく。
- ・ライフサポートファイルの活用
⇒各市で作っていて県のHPにも公開している。児に合ったフォーマットで書けば良いが、比較的松戸市は医ケアや肢体不自由児も想定して作られている。

総評（

- ・色々な子どもたちがいる⇒同じ原因でも症状が異なる。必要な機器も子どもによって違う
- ・医療的なことについて聞ける方とつながっていることが大切⇒引き出し、選択肢の多さ
- ・お母さんの負担を考える
- ・乗り越えることが経験につながるのではないか
- ・千葉リハの見学も可能
- ・できる限り受診同行に行くようにしていた⇒お医者さんが言っていることを聞くことで学びになる

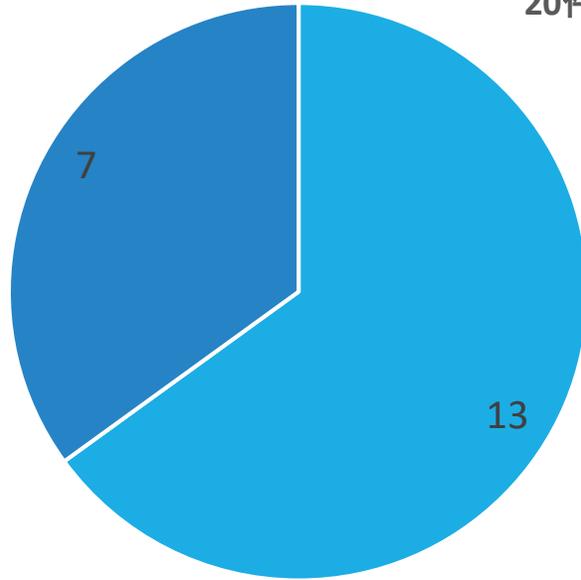
（千葉県医療的ケア児等支援センターぽらりす山野木氏）

3.医療的ケア児者支援研修会 第二回終了後アンケート回答



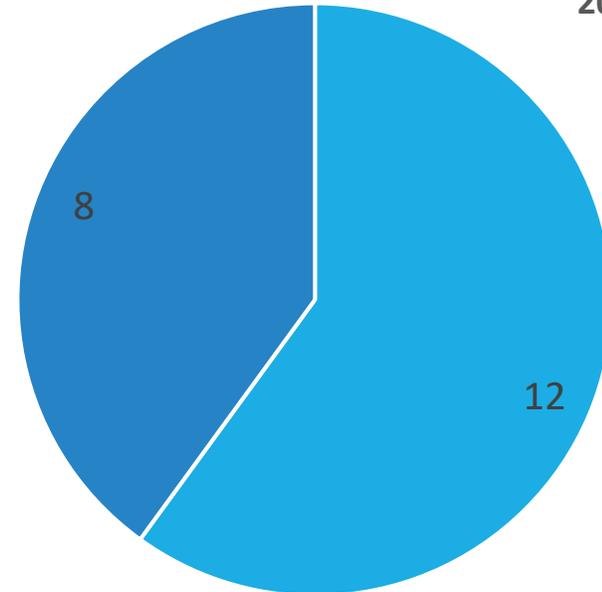
問①.今回の研修会、満足できましたか？ 問②.学んだ内容を業務で活用できますか？

20件の回答



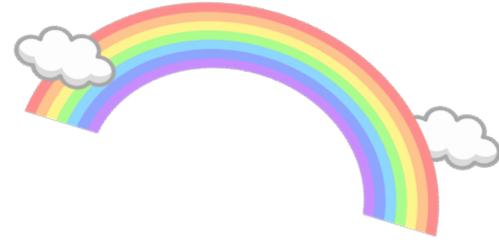
■ 大変満足できた ■ やや満足できた

20件の回答



■ 非常に活用できる ■ 少し活用できる

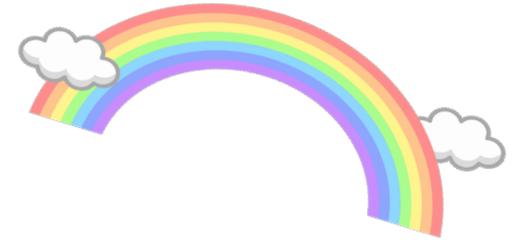
3.医療的ケア児者支援研修会 第二回終了後アンケート回答



問③.②でどのように活用できると思いますか？

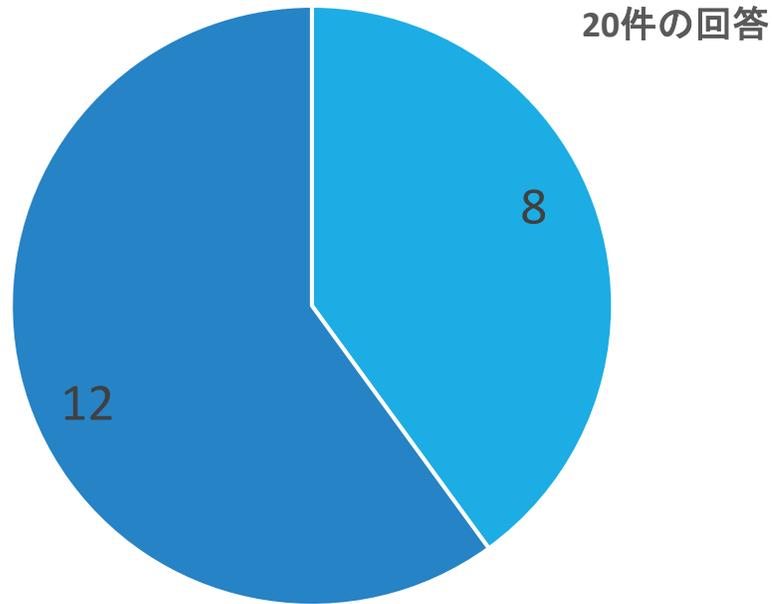
- 実践の場で
- 他市になるが相談できる場所があり安心した。
- まだ医ケア児がいないが、今後担当した時には活かしていきたい
- 他市との交流ができた。
- 訪問看護さんや訪問診療との関わり
- グループワークもあり気軽に話せる場
- 医ケアと言う分野が難しいと常に思っていますが、皆で情報を共有出来れば良いなと思った。
- 医療的ケア児の親御さんに接する際の心構え
- 相談員としての心持ち、業務への考え方
- より多くの事例を知る事で、自分の支援にいかせると感じた。
- 難病をお持ちの利用者さんへの支援の仕方。また、事務所内でも共有しようと思う。
- 相談を受けた時に役立てたい。
- 事業所を沢山訪問してみようと思った。
- 自身が相談できる先があることがわかった。
- 市で医ケア児支援について検討している。他市の情報や相談支援専門員の役割を共有していきたい。
- 相談できる事業所が増えた
- 実際に医ケア対応をされている支援者の困っている・悩んでいる事例を聞くことができ、参考になった。
- 今後、医ケア児の相談支援をすることがあった場合
- 向き合う姿勢や心構えが参考になった。
- 医療的ケアの知識を再確認できた。また、各関係機関の役割や専門性が活かせるようなチーム作りをしていこうと思った。

3.医療的ケア児者支援研修会 第二回終了後アンケート回答



問④.内容は理解できましたか？

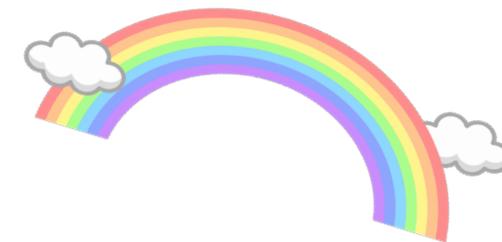
問⑤.理解できなかった点や、さらに知りたい点がありますか？



■ よく理解できた ■ おおむね理解できた

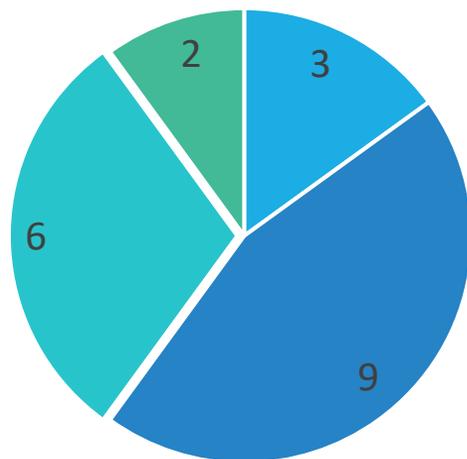
- ・医療的ケア児者との向き合い方
- ・相談支援専門員にとって必要な医ケア知識完全マニュアル！みたいな、基本のキがわかる資料があるととても嬉しいと思いました。
- ・相談員として、医ケアあるなしは関係ない。ということ。目から鱗だった。
- ・自分だけではなく、同じ思いを共有できてよかった
- ・相談員は万能でなくていい
- ・ライフステージごとの不安や対応の仕方が変わること。事例にあった子について、現実の厳しさもあるということも知った。
- ・医療面の知識は、まだまだ分からない事も多いと感じた。

3.医療的ケア児者支援研修会 第二回終了後アンケート回答



⑥ 今回の研修を受けて、医ケアケースの依頼があったら引き受けますか？

20件の回答



- 積極的に引き受けたい
- 医ケアコーディネーターなどのサポートがあれば引き受けたい
- 条件次第では検討するが、引き受けない場合もある
- よくわからない

⑦ 研究会に関する感想や意見を自由に書いてください。

- 事例の話を多く聞きたい
- 知識が少しいつて勉強になった。
- 他市にわたる研修会でつながりが広がった

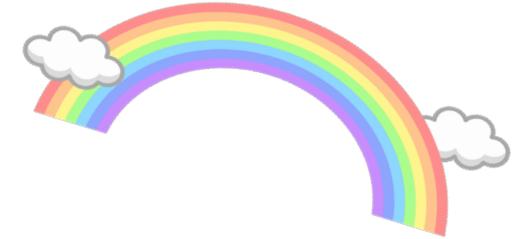
4.研修を終えて見えてきた医療的ケア児者談支援に関する地域課題と今後の展望

＜今回の研修の成果＞

- ①医療的ケア児者への相談支援に対する心理的ハードルの低減
- ②「一人で抱えなくてよい」「つながることが重要」という共通認識の形成
- ③医ケア分野を「自分の業務と無関係ではない」と捉え直すきっかけ
- ④半数以上が「今後医ケアケースの依頼があれば（医ケアコーディネータ等のサポートがあれば）引き受けたい。」と回答
- ⑤他市・他機関の参加もあり、市を超えてつながりが持てた

＜今後の地域課題＞

- ①相談員それぞれには医ケアの知識についてばらつきがあるので、ケースを多く引き受ければ引き受けるほどケースが集まってくる。
- ②相談先の可視化が必要。ワンストップで相談できる場所⇒**医ケア児支援センター？**
- ③ケースを「引き受ける」と答えた半数以上が「**医ケアコーディネータ等のサポートがあれば**」と条件付き。
- ④相談支援専門員や医ケア児コーディネーターの人数を増やしたり個人の力量を上げることよりも、近隣地域を巻き込んだ支援体制の整備が必要



令和7年度第2回 松戸市医療的ケア児の支援のための連携推進会議

医療的ケア児者支援研修会の報告

ご清聴ありがとうございました m (_ _) m